

2015年度 前期	曜日・校時 水 4-5、金 4-5	必修/選択 薬：選	単位数 2
授業コード	<b>臨床検査学Ⅱ</b>		
授業科目(英語名)	Clinical Assay Technology II		
対象年次 5年	講義形態 講義科目	教室 [薬] 第一講義室	
対象学生(クラス等) 薬学科	科目分類 講義科目(選択)		
担当教員(科目責任者)/Eメールアドレス / 研究室 / TEL/ オフィスアワー 黒田 直敬 / n-kuro@nagasaki-u.ac.jp / 薬品分析化学研究室 / 095-819-2894 / 月～金 13:30～15:00			
担当教員(オムニバス科目等)	黒田 直敬、大山 要		
授業の概要及び位置づけ/授業方法(学習指導法)/授業到達目標			
<p>授業の概要及び位置づけ： 臨床検査に使用される典型的な分析法及びその原理について理解するとともに、最新の自動分析装置、微量分析法、検査試薬に関する知識を習得する。</p> <p>授業到達目標： ・検査を行う意義について説明できる。 ・検査試料を取り扱う際の注意点を挙げることができる。 ・代表的な臨床検査法について説明できる。</p> <p>薬学教育モデル・コアカリキュラムとの対応 C2「化学物質の分析」(2) 化学物質の検出と定量</p> <p>授業方法(学習指導法)： 講義を主体に、必要に応じてプリントの配付やスライドを用いる。</p>			
<p>授業の概要 / 授業内容(毎週毎の授業内容を含む)</p> <p>生体試料中の微量成分を選択的に測定する臨床化学分析法の原理及び反応式について解説する。また、臨床検査値と病態との関連性に加え、検査を行う意義を講義する。</p> <p>第 1回 4/8 臨床検査に必要な統計学の基礎について理解する(1) [大山]  第 2回 4/8 臨床検査に必要な統計学の基礎について理解する(2) [大山]  第 3回 4/10 臨床検査に必要な統計学の基礎について理解する(3) [大山]  第 4回 4/10 肝機能検査について学ぶ [大山]  第 5回 4/15 肝機能検査について学ぶ(2) [大山]  第 6回 4/15 腎機能検査について学ぶ [大山]  第 7回 4/17 膵・甲状腺機能検査について学ぶ [大山]  第 8回 4/17 尿検査について学ぶ(1) [大山]  第 9回 4/22 尿検査について学ぶ(2) [大山]  第 10回 4/22 血液検査について学ぶ(1) [黒田]  第 11回 4/24 血液検査について学ぶ(2) [黒田]  第 12回 4/24 臨床検査に用いられるドライケミストリーについて学ぶ [黒田]  第 13回 5/1 臨床検査に用いられる自動分析システムについて学ぶ [黒田]  第 14回 5/1 臨床検査に用いられる超微量臨床分析法について学ぶ [黒田]  第 15回 5/8 総括</p>			
キーワード	臨床検査, 生体試料, 尿検査, 血液検査		
教科書・教材・参考書	教科書：薬学生のための臨床化学(南江堂) 片山善章、後藤順一 編 参考書：薬剤師のための臨床検査ハンドブック(丸善) 前田昌子、高木 康 編著		
成績評価の方法・基準等	上記目標に対する達成度を、試験結果(80%)、レポート(10%)、授業中の課題に対する積極的な取り組み状況(10%)により総合的に評価する。ただし、最終試験で60%未満は不合格とする。		
受講要件(履修条件)	臨床検査学Ⅰを受講していることが望ましい。		
備考(URL)			
学生へのメッセージ	分析化学を基礎として臨床検査は成り立っており、結果を正確に解釈するためにも、測定原理への正しい理解が必要である。		

2015年度 前期	曜日・校時 火4	必修/選択 薬：選	単位数 1
授業コード 20153002003	<b>医療実験計画法</b>		
授業科目(英語名)	Design of Experiments in Pharmaceutical Health Care and Sciences		
対象年次 5年	講義形態 講義科目	教室 [薬] 各研究室	
対象学生(クラス等) 薬学科	科目分類 講義科目(選択)、演習科目		
担当教員(科目責任者)/Eメールアドレス / 研究室 / TEL / オフィスアワー 各指導教員 / Eメールアドレス / 研究室 / TEL : NU-Web システム上の各指導教員のシラバスを参照 / / /			
担当教員 (オムニバス科目等)			
授業の概要及び位置づけ/授業方法(学習指導法)/授業到達目標			
<p>授業の概要及び位置づけ： 臨床薬学に関わる各研究領域の実験に関して、正確で精度のよい結果を効率的に得られるような実験を設計し、得られた結果を解析し、結論を導き出せるようにする。</p> <p>授業到達目標： 本講義によって、臨床薬学に関わる実験の設計に必要な知識、考え方を習得し、得られた結果を解析、考察し、次の実験計画に反映できるようにする。</p> <p>薬学教育モデル・コアカリキュラムとの対応 C1-3 [物理系薬学を学ぶ]</p> <p>授業方法 (学習指導法)： 各研究室に配属され、指導教員の指導のもと課題となる実験を設定し、そのための計画を立案する。これに従い実験を遂行し、得られた結果を解析し、結論を導き出す。</p>			
授業の概要 / 授業内容(毎週毎の授業内容を含む)			
課題となる実験は指導教員と相談の上設定する。その実験の遂行に必要な事前調査を行い、計画を作成し、実行する。得られた結果を解析、考察し、結論を出すとともに、実験計画の改良に反映させる。			
第 1回 実験計画の意義・必要性 第 2回 実験計画のたて方 第 3回 実験計画のモデル 第 4回 実験計画の作成 第 5回 実験の遂行 第 6回 実験結果の解析と考察 第 7回 実験計画の改善 第 8回 レポートの作成			
キーワード	実験計画、結果解析		
教科書・教材・参考書	指導教員が適宜、指定する。		
成績評価の方法・基準等	学生の課題に対する積極的な取組状況 (40%)、実験計画の内容 (30%)、レポート (30%)		
受講要件(履修条件)	特になし。		
備考 (URL)			
学生へのメッセージ	卒業研究を効果的に遂行するうえで、基礎となる科目である。		

2015年度 前期	曜日・校時 月 1-4	必修/選択 薬：必	単位数 0.1
授業コード 20153001130083	<b>薬物治療実践学</b>		
授業科目(英語名)	Applied Drug Therapy in Pharmacy Practice		
対象年次 6年	講義形態 講義科目	教室 [薬] 5階研修室	
対象学生(クラス等) 薬学科	科目分類 講義科目(必修)		
担当教員(科目責任者)/Eメールアドレス/研究室/TEL/オフィスアワー 中嶋 幹郎 / mikirou@nagasaki-u.ac.jp / 歯学部本館7階 実践薬学 / 095-819-8570 / 月-金 9:00-17:00 ただし事前にメール等で予約を取ること			
担当教員(オムニバス科目等)	中嶋 幹郎、井口 茂、大町 いづみ、手嶋 無限、坂本 仁美		
授業の概要及び位置づけ / 授業方法(学習指導法) / 授業到達目標			
<p>授業の概要及び位置づけ： 薬学生に対しては「薬局薬剤師の職能に関するアドバンス教育」を行う。</p> <p>授業到達目標： 在宅療養支援に携わるそれぞれの専門職の職能を理解し、地域医療の中で薬局薬剤師が取り組む共同薬物治療管理(CDTM)の内容について説明できる。地域医療の中での医療・介護・福祉の専門職間の連携(多職種協働)の重要性と薬局薬剤師、看護師、医師等のそれぞれの専門職が果たすべき役割について説明できる。</p> <p>【薬学教育モデル・コアカリキュラムとの対応】 C18に対応。</p> <p>授業方法(学習指導法)： スライドを使った講義と受講者による小グループ討論(SGD)を行う。</p>			
<p>授業の概要 / 授業内容(毎週毎の授業内容を含む)</p> <p>保健医療・福祉の専門職が超高齢社会における在宅療養支援に携わることは重要である。そのため、在宅療養支援に携わるそれぞれの専門職の職能を解説する。学生は自らが決断して行動できる次世代の医療職像を考える。</p> <p>第1回 4月13日 これからの地域薬局のあり方と薬局薬剤師の目指す薬物治療(中嶋幹郎) 第2回 4月13日 薬局薬剤師が支援するセルフメディケーション(手嶋無限) 第3回 4月13日 高齢者の在宅療養支援(井口 茂) 第4回 4月13日 在宅療養支援における看護職との連携(大町いづみ) 第5回 4月20日 薬局薬剤師がはじめるフィジカルアセスメント(手嶋無限) 第6回 4月20日 在宅療養支援におけるチームアプローチⅠ(中嶋幹郎) 第7回 4月20日 在宅療養支援におけるチームアプローチⅡ(坂本仁美) 第8回 4月20日 総合演習(中嶋幹郎・手嶋無限・坂本仁美)</p>			
キーワード	薬局薬剤師、CDTM、訪問看護師、地域医療、在宅療養支援、在宅がん医療、緩和ケア、多職種協働		
教科書・教材・参考書	教材：配布プリント		
成績評価の方法・基準等	授業中の課題に対する積極的な取組状況(50%)、レポート(50%)により総合的に評価する。		
受講要件(履修条件)	履修制限あり。希望者は科目責任者に事前相談すること。		
備考(URL)			
学生へのメッセージ	「在宅医療・福祉コンソーシアム長崎」からの「NICE キャンパス長崎」登録科目。毎回の授業内容をよく復習しておくこと。		

2015年度 前期	曜日・校時 月 5	必修/選択 薬：必	単位数 2
授業コード 201530091620	<b>医療薬学総合演習</b>		
授業科目(英語名)	Systematic Seminar on Pharmaceutical Health Care and Sciences		
対象年次 6年	講義形態 講義科目	教室 多目的ホール	
対象学生(クラス等) 薬学科	科目分類 講義科目(必修)		
担当教員(科目責任者)/Eメールアドレス / 研究室 / TEL/ オフィスアワー 西田 孝洋 / koyo-n@nagasaki-u.ac.jp / 歯学部本館7階 薬剤学研究室 / 095-819-8566 / 火・金曜日 16:00-18:00 (LACS で予定を確認すること)、メールでも対応。			
担当教員(オムニバス科目等) 西田 孝洋、中嶋 幹郎、塚元 和弘、川上 茂、麓 伸太郎、近藤 新二、大山 要			
授業の概要及び位置づけ/授業方法(学習指導法)/授業到達目標			
<p>授業の概要及び位置づけ： これまで個別に学んできた薬学の全領域（物理・化学・生物、衛生、薬理、薬剤、病態・薬物治療、法規・制度・倫理、実務）を総合的に学習し、受講者が将来薬剤師として活躍できる基礎力、実践力および総合力を獲得する。</p> <p>授業到達目標： 薬剤師に必要な薬学領域の基礎力、実践力および総合力が獲得できている。</p> <p>【薬学教育モデル・コアカリキュラムとの対応】 E2 総合薬学演習に対応。</p> <p>授業方法（学習指導法）： 薬剤師が現在直面する一般的課題について、グループディスカッションなどを通じて調査・抽出し、具体的な解決方法を導き出す。これまでに得られている典型的な課題については、演習問題のデータベースとして提供し、適宜解説を行う。通常は、eラーニング教材（LACS）を利用する。</p>			
授業の概要 / 授業内容(毎週毎の授業内容を含む)			
<p>これまでに学んできた薬学の全領域（物理・化学・生物、衛生、薬理、薬剤、病態・薬物治療、法規・制度・倫理、実務）に関連する一般的課題を抽出し、その一般的課題を解決するための方法を探求していく。各項目ごとに分けて、演習を段階的かつ系統的に実施する。</p> <p>授業内容</p> <p>第 1回 物理分野に関連する一般的課題の抽出と解決方法の探求（西田）  第 2回 化学分野に関連する一般的課題の抽出と解決方法の探求（西田）  第 3回 生物分野に関連する一般的課題の抽出と解決方法の探求（西田）  第 4回 衛生分野に関連する一般的課題の抽出と解決方法の探求（西田）  第 5回 薬理分野に関連する一般的課題の抽出と解決方法の探求 1（西田）  第 6回 薬理分野に関連する一般的課題の抽出と解決方法の探求 2（西田）  第 7回 薬剤分野に関連する一般的課題の抽出と解決方法の探求 1（西田）  第 8回 薬剤分野に関連する一般的課題の抽出と解決方法の探求 2（西田）  第 9回 病態・薬物治療分野に関連する一般的課題の抽出と解決方法の探求 1（西田）  第 10回 病態・薬物治療分野に関連する一般的課題の抽出と解決方法の探求 2（西田）  第 11回 法規・制度・倫理分野に関連する一般的課題の抽出と解決方法の探求（西田）  第 12回 実務分野に関連する一般的課題の抽出と解決方法の探求 1（西田）  第 13回 実務分野に関連する一般的課題の抽出と解決方法の探求 2（西田）  第 14回 実務分野に関連する一般的課題の抽出と解決方法の探求 3（西田）  第 15回 総合演習（西田、中嶋、塚元、川上、麓、近藤、大山）</p>			
キーワード	物理・化学・生物、衛生、薬理、薬剤、病態・薬物治療、法規・制度・倫理、実務		
教科書・教材・参考書	教科書：これまで学んできた専門科目の教科書 教材：独自に作成したeラーニングコンテンツ（LACS）		
成績評価の方法・基準等	<p>考査 50%、演習課題に対する積極的な取り組み状況 50%</p> <p>薬剤師が直面する一般的課題を解釈し、医療の実務において一般的課題を解決するための基礎力、実践力および総合力を獲得できたかどうかは、考査および演習課題に対する積極的な取り組み状況によって評価する。</p>		
受講要件(履修条件)	実務実習（病院・薬局）を履修済み、あるいは履修中。		
備考（URL）	<a href="http://www.ph.nagasaki-u.ac.jp/">http://www.ph.nagasaki-u.ac.jp/</a>		
学生へのメッセージ	グループディスカッションには積極的に参加し、LACSによる自学自習に励んで下さい。授業には、長大 Wi-Fi に接続できるノート PC を持って来て下さい。		

